

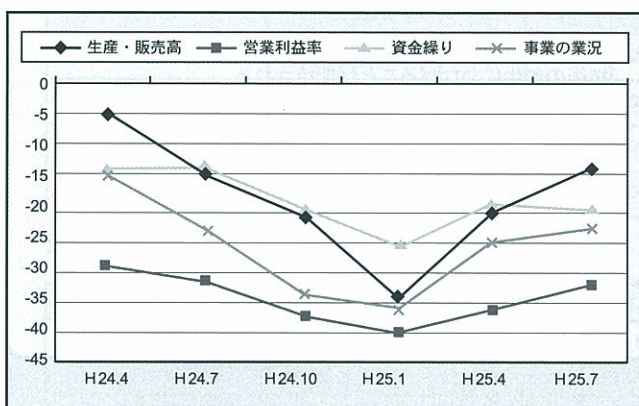
【調査の概要】  
 平成25年7月31日時点調査（郵送法）  
 調査対象 県内1,000社  
 回答企業 397社（回答率 39.7%）

## ～ 回復基調ながら先行きには警戒感 ～

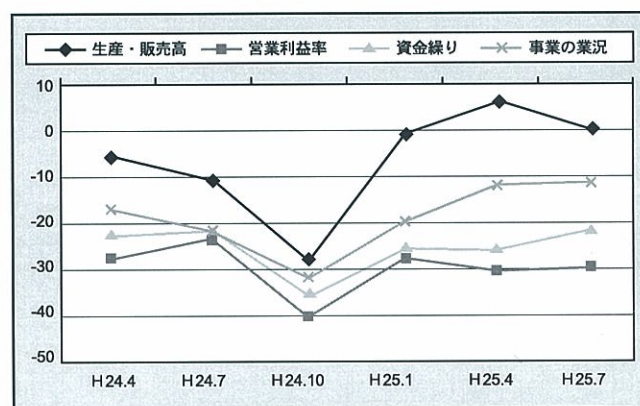
### 【全産業DI値】（表1・表2）

山形県全体のDI値(※)の前年同月比推移を見ると、資金繰りについて、やや厳しさが見られるものの生産・販売高、営業利益、事業の業況の項目については、本年4月30日時点の調査よりも、さらに良好傾向にある事がうかがわれる。しかし、生産・販売高に比較し、営業利益率に対する見方は厳しく、楽観視できない見通しとしている。計数は次のとおり、生産・販売高(H25.4調査▲20.1→▲13.4)、営業利益率(▲35.9→▲32.8)、資金繰り(▲19.3→▲20.4)、事業の業況(▲25.2→▲22.4)。3ヶ月先見通しDI値(表2)では、全体的にやや厳しい予想をしており、各項目とも若干の低下ないしは横ばいとする見方をしている。計数は次のとおり生産販売高(H25.4調査6.3→1.2)、営業利益率(▲30.4→▲29.4)、資金繰り(▲26.1→▲23.0)、事業の業況(▲12.5→▲11.9)。

【表1 - 県計前年同月比DI値の推移】



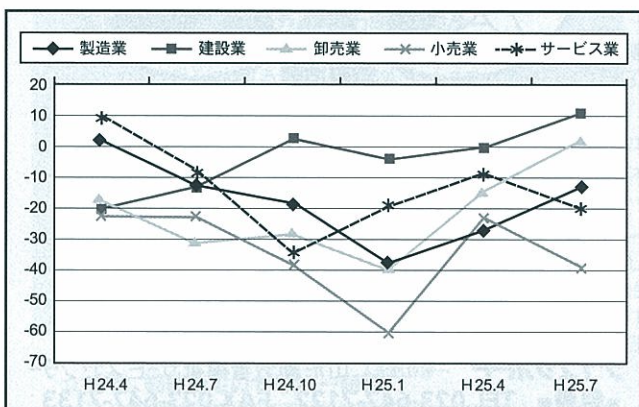
【表2 - 3ヶ月先見通しDI値の推移】



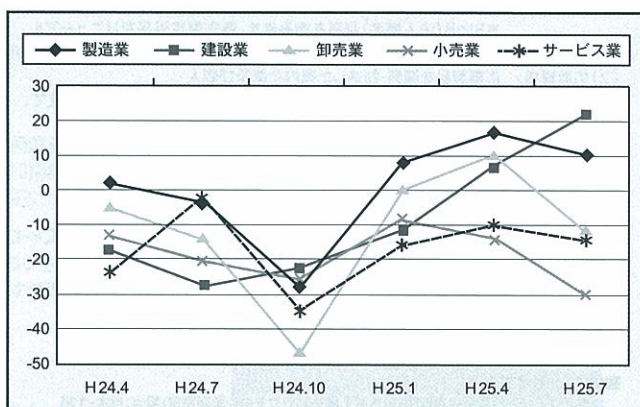
### 【産業別DI値】（表3・表4）

生産・販売高の前年同月比DI値を業種別に見ると、小売業、サービス業で悪化しており、製造業、建設業、卸売業で良好化している。計数は次のとおり、製造業(H25.4調査▲26.3→▲12.8)、建設業(0→11.4)、卸売業(▲14.7→2.5)、小売業(▲23.6→▲38.7)、サービス業(▲10.6→▲19.9)。3ヶ月先見通しDI値については、建設業を除くすべての業種で、悪化する見通しとの予想を示している。特に小売業については昨年4月の調査時点で▲20.3、今回の調査では▲30.0となっており大幅に悪化する見通しとなっている。表4の計数は次のとおり、製造業(15.1→12.3)、建設業(6.8→22.2)、卸売業(8.8→▲12.9)、小売業(▲11.7→▲30.0)、サービス業(▲8.5→▲15.2)。このアンケート調査にご協力いただいている企業の方から建設業では人手不足・資材価格の高騰、卸売業では燃料費増加、サービス業では大雨、断水による来店客の減少を『課題』として、コメントをお寄せいただいた。県内企業については、安倍政権の積極的な景気対策もあり、建設業を中心に業績が向上している企業も多くなっている。一方、円安等による経費増加もありながら、それを製品価格に転嫁できず、経営悪化に苦しむ中小企業も多い。企業収益の確保は、なお厳しい状況が続いている。

【表3 - 業種別生産・販売高前年比DI値の推移】



【表4 - 業種別生産・販売高3ヶ月先見通しDI値の推移】



(※) DI値：「増加」とした企業の割合から「減少」とした割合を差し引いた指数